

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館	
施 設 名	滋賀県立文化産業交流会館	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	12,340	(千円)
公 演 事 業	7,998	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,971	(千円)
普 及 啓 発 事 業	2,371	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 芝居小屋「長栄座」新春公演「至芸」～相伝の美学～	平成31年1月19日(土)	◆主な演目：地歌「水鏡」、長唄「狸々」ほか◆主な出演者：井上八千代(人間国宝、京舞井上流五世家元)、若柳吉蔵(若柳流五世宗家家元)、山村友五郎(山村流六世宗家)、若柳寿延(若柳流四世家元)ほか◆主なスタッフ：久保田敏子(監修)、前原和比古(企画・構成)ほか	目標値	300
		滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内特設舞台「長栄座」		実績値	415
2	滋賀県次世代創造発信事業 芝居小屋「長栄座」新春公演「湖国にて」～歌と和楽器の出逢いの刻～	平成31年1月20日(日)	◆演目：第1部「日本民謡による組曲」ほか、第2部合奏曲「迦樓羅」ほか◆主な出演者：池上眞吾、横山政美、野村祐子ほか◆主なスタッフ：久保田敏子(監修)、池上眞吾(企画・演出)ほか	目標値	300
		滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内特設舞台「長栄座」		実績値	301
3				目標値	
				実績値	
4				目標値	
				実績値	
5				目標値	
				実績値	
6				目標値	
				実績値	
7				目標値	
				実績値	
8				目標値	
				実績値	
9				目標値	
				実績値	
8				目標値	
				実績値	
9				目標値	
				実績値	
10				目標値	
				実績値	
11				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	600
				実績値	716

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 邦楽・邦舞専門実演家養成事業	◆稽古：平成30年9月～平成31年2月までの間16回 ◆定期公演：2月17日（日）	◆演目「落葉の踊り」ほか◆主な出演者：滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」ほか◆講師：野村祐子、池上眞吾、久保田敏子（監修）ほか	目標値	10
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場、練習室ほか		実績値	10
2	滋賀県次世代創造発信事業 アートマネジメント人材養成講座	平成30年10月～平成31年2月の間の8日間	◆滋賀県立文化産業交流会館・滋賀県立大学合同講座「アートマネジメント人材養成講座」として実施。◆講師等：児玉真、阿南一徳、衣川絵里子、森川稔ほか◆アウトリーチ出演者：パウム（浅川いずみ、伊藤咲代子）	目標値	10
		滋賀県立文化産業交流会館 会議室、滋賀県立大学 ほか		実績値	16
3				目標値	
				実績値	
4				目標値	
				実績値	
5				目標値	
				実績値	
6				目標値	
				実績値	
7				目標値	
				実績値	
8				目標値	
				実績値	
9				目標値	
				実績値	
10				目標値	
				実績値	
11				目標値	
				実績値	
12				目標値	
				実績値	
13				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	20
				実績値	26

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワーク ショップ(箏・日本舞踊)	通常コース：平成30年9月～平成31年2月の間各13回 発表会：2月17日(日) ほか にジュニアコース	◆通常コース：☆箏部門「ボ子が吠えたよ」ほか☆ 日本舞踊部門「絵日傘」ほか◆講師：箏部門：片岡リサ ほか ☆日本舞踊部門 花柳風春ほか。他にジュニアコース。	目標値	通常コース：箏20名、日本舞踊20名 ほか
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場・練習室 ほか		実績値	通常コース：箏35名、日本舞踊27名 ほか
2	滋賀県次世代創造発信事業 アートのじかん	平成30年4月～平成31年1月の学校派遣17日間、関連企画2日間 ほか	◆内容：アーティスト研修、模擬アウトリーチ ◆おもな派遣アーティスト：バウム：浅川いずみ・伊藤咲代子、ゆらぎ：伊藤志野、岩本みち子ほか ◆講師等：中川賢一、花田和加子、宮本妥子、有門正太郎、後藤ゆり子 ほか	目標値	学校派遣20校
		研修等：滋賀県立文化産業交流会館、県内の小中学校、特別支援学校17校 ほか		実績値	学校派遣17校
3				目標値	
				実績値	
4				目標値	
				実績値	
5				目標値	
				実績値	
6				目標値	
				実績値	
7				目標値	
				実績値	
8				目標値	
				実績値	
9				目標値	
				実績値	
10				目標値	
				実績値	
11				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	-
				実績値	-

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

滋賀県立文化産業交流会館の位置する湖北地域は、豊かな自然景観を有し、歴史遺産に恵まれた地域の代表格でもある。

また、曳山歌舞伎に代表される伝統芸能や祭礼行事が盛んで、工芸作品が多く継承され、特に長浜では和楽器系の生産が行われている。現在、全国で7社の和楽器系の製造会社のうち、4社は滋賀にあり、その生産量は日本一である。全国の和楽器演奏家の多くはこの長浜の箏系や三絃系を活用し、愛好しており、その技術は卓越している。

これらの地域特性を活かし、平成23年度からは当館のイベントホール内に明治期に長浜市で栄えた芝居小屋「長栄座」を期間限定の仮設舞台として再現し、「邦楽・邦舞」の公演制作事業を行うとともに、若手実演家のための「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」やアートマネジメント人材の発掘・育成事業に重点を置き、取り組んだ。

また、「古典芸能キッズワークショップ」、小・中学校等へ音楽家等を派遣する「アートのじかん」の普及啓発事業にも取り組んだ。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

今年度の芝居小屋「長栄座」の2公演は、平成31年1月19日の「至芸」公演では「竹生島」、「水鏡」の上演、翌20日の「湖国にて」公演では、米原市内の景勝地を新作邦楽組曲「米原」として、初演するなど滋賀に固有の題材を舞台作品として上演することを通じてその魅力を再発見し、地域コミュニティの再生を目的として実施することができた。

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」については、邦楽・邦舞の専門的な教育機関が地方には皆無であり、地方に在住する意欲的な邦楽・邦舞の実演家の深刻な現状に対して微力ながら公的機関として支援することが目的の事業であり、その期待は大きい。

「アートマネジメント人材養成講座」では、ホール・大学・福祉団体という3セクターが各自の持ち味を活かしながら「アートによるまちづくり」を共通テーマにして社会的な課題解決を探るための講座を実現することができた。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

当館では、これまで県立文化施設の北の文化の拠点として、地域や施設の特性を生かし、「1.文化芸術の発信」、「2.文化・芸術資源の発掘と活用」、「3.文化・芸術活動の支援と人材育成」、「4.文化と産業の連携」および「5.活動と交流の拠点創出」の実施方針を今年度も目標に掲げ、今年度の指標はこれまでの実績等を勘案した数値とした。成果は次の通りである。

1.文化芸術の発信

邦楽・邦舞に重点を置いた劇場として、人間国宝の井上八千代師を始め日本を代表する舞踊家や邦楽演奏家を招聘して「至芸」を披露し改めて古典芸能の持つ魅力を発信できた。

2.文化・芸術資源の発掘と活用

地元米原市をテーマにした新作邦楽組曲の公演を開催し古典芸能へ関心を高めるとともに、地元の魅力を再発見する機会となった。

また、文化芸術に触れる機会の少ない学校へのアウトリーチ事業を17校(目標20校)で実施できた。

3.文化と産業の連携

「長栄座」公演時に県内の伝統産業と連携し「近江のあたらしい伝統産業展」を開催し、周知した。

4.文化・芸術活動の支援と人材育成

次代を担う小中学生を対象としたワークショップ(箏・日本舞踊)、若手・中堅アーティスト向けの講座や研修、地域で活動するアートマネージャーの養成講座(滋賀県立大学との合同)を実施し担い手の育成に努めた。

5.活動と交流の拠点創出

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」の実施や高等学校等文化活動ジャンプアッププロジェクトを支援をすることにより若手古典芸能実演家の活動拠点となった。また、様々な分野の事業を実施することで老若男女が集う交流の場を提供した。

6.主な指標について

①公演事業

- ・入場率は目標68%に対し約81%であった。
- ・顧客満足率は目標80%に対し約87%であった。
- ・情報媒体の掲載数は目標8回に対し7回であった。

②人材養成事業

- ・養成事業の参加者が目標8名に対し10名(邦楽部門)であった。
- ・アートマネジメント人材養成講座の受講者が目標20名に対し16名であった。

③普及啓発事業

- ・古典芸能キッズワークショップの参加者が目標各20名に対し箏35名、日本舞踊27名であった。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業(「長栄座」新春公演)では、事前打合せを行い、新年度になり、本番に向けての内容の具体化と綿密なスケジュール調整を行い、計画通りに終了した。また、当該事業(2公演)の事業費運用率(支出実績額/支出予算額)は86%となり、80%(【「助成対象活動計画変更承認申請」の基準となる変更率(100%±変更率20%)】をクリアすることができ、多くの入場者を迎えて実施した。

人材養成事業の「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」では、「長栄座」新春公演と成果発表会(「未来へつなぐ古典芸能」)両公演の綿密なスケジュール調整を行い、計画通りに終了。募集方法を工夫することで新規の参加者も得て実施した。

また、「アートマネジメント人材養成講座」では、大学との合同講座として初めて実施した。連絡調整に時間を要し、スケジュール的にタイトな時期もあったが、当館、滋賀県立大学、NPOぼぼハウスや受講生同志の連携体制が取れたことにより、計画通りに終了した。当該事業の事業費運用率は、運営費が安価で済んだことから72%となり変更基準をクリアできなかった。

普及啓発事業では、「古典芸能キッズワークショップ」は、初めて上級コースを設け、通常コースと前半後半に分けて実施し、スケジュール調整を行い、計画通りに終了した。両コースとも多くの参加者により実施した。また、「アートのじかん」は、アーティスト募集、研修および学校募集から学校派遣まで計画通りに終了した。前年度より派遣学校数は減少したが、関連企画としてワークショップや派遣アーティストのコンサートを実施するなど内容の充実を図った。当該事業の事業費運用率は89%と変更基準をクリアできた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

（第一線の監修者を据えたメリット）

芝居小屋「長栄座」事業には、平成26年度から事業監修および舞台芸術アドバイザーとして京都市立芸術大学名誉教授の久保田敏子（文化庁文化財第4専門調査会委員、文化庁芸術祭審査委員を歴任。平成25年度京都市文化功労者表彰。）を迎えている。日本の古典芸能全般を網羅する学識経験の豊富さでは、他の追随を許さない第一級の研究者で、芸術面の諸判断、広範な人脈によるキャスティングが可能である。

（具体の公演での成果）

新春公演の「至芸」～相伝の美学～[平成31年1月19日（土）]では、人間国宝、京舞井上流五世家元の井上八千代をはじめ、関西屈指の流儀の宗家及び家元である山村友五郎（山村流六世宗家）、若柳吉蔵（若柳流五世宗家家元）、若柳寿延（若柳流四世家元）を招聘し、四師と後継者たちによる湖国ゆかりの演目「水鏡」や「竹生島」等上演。親（師）から子（弟子）へと受け継がれる芸の真髓を披露し、前述の監修者を据えることで実現した高水準の実演とともに、地域の文化活動者の意識向上へ大いに貢献した。

また、翌日の「湖国にて」～歌と和楽器の出逢いの刻～[平成31年1月20日（日）]では、滋賀の名所にちなんだ演目を上演したが、池上眞吾（作曲家、東京芸術大学邦楽科非常勤講師）が、米原市の各所を取材し、約8カ月をかけて、5楽章の新作邦楽組曲『米原』（柏原宿～醒井宿～三島池～泉神社～伊吹山）を完成させ、文字通り日本初演となった。この作品は、和歌（和泉式部ほか）に焦点を当てた格調高い和の作風と、映画音楽を彷彿とさせる甘美なメロディーを融合したことで聴衆を大きく魅了した。

さらに、若手の演奏家も活躍した。片岡リサ（箏、大阪音楽大学特任准教授、平成30年度文化庁芸術祭優秀賞受賞）をはじめ、田嶋謙一（尺八、平成26年度文化庁芸術祭新人賞受賞）、日吉章吾（箏、平成28年度文化庁芸術祭新人賞受賞）、吉澤延隆（箏・十七絃、東海大学非常勤講師、平成20年第15回賢順記念箏曲コンクール第1位受賞）など新進気鋭の演奏家たちも、高水準の公演へ大きく貢献した。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域に固有の資産を発掘し、その素材を加工し『第6次産業』と呼ばれる新しい姿に生まれ変わらせることで「地域の豊かさ」に気づき、そこで暮らしていることに誇りと喜びを感じるという視点は、舞台芸術作品を創ることに十分にあてはまるものと考えられる。

①邦楽・邦舞専門実演家養成事業」では、日本の邦楽界を代表する箏奏者野村祐子（正絃社二代家元・愛知県立芸術大学非常勤講師）と池上眞吾（作曲家・東京芸術大学非常勤講師）を講師に迎え、中堅・若手の邦楽演奏家（箏・三味線・十七絃）の技術向上を目的とし、およそ半年間、月に2～4回の稽古を重ね、加えて、受講者の創造性を促す基礎知識を育むため、久保田敏子（長栄座監修者）の講義も実施した。成果発表としての舞台経験を積んだ受講生の中には、プロ演奏家としての第一歩を踏み出したものも生まれた。“耕す(culture)語源をもつまさに文化(culture)と言える。

②「アートマネジメント人材養成講座」では、従来の座学型から企画制作から公演の運営までを一貫して受講生が担う実践型に移行した。また、初めて、当館と滋賀県立大学地域共生センターとの連携が実現し、大学の講義「地域デザインD」（テーマ：「アートによるまちづくり」）としてカリキュラム化された。のべ8日間かけて、受講者は、専門家の指導を受けながら研鑽し、地域の福祉施設で成果発表の場を迎えた。受講者は、地域住民、大学生、ホール関係者であったが、立場の異なる人々が出会い、公演制作のプロセス現場を通じ、アートとまちづくりの様々な可能性を追求することで、実演芸術の振興と地域の文化芸術の発展の双方に寄与する好機となった。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

劇場運営について、当財団の中期経営計画（2017～2020年）に掲げる基本方針のもと、その方針を推進するための経営戦略、および具体的な事業計画と収支計画に基づき、定量的・定性的な目標の達成に向け、進行管理を行い検証し、県立の劇場・音楽堂としての機能を果たすべく取り組んでいる。

人事に関して、職員を適材適所に配置し、OJTや外部講師による研修等を実施するとともに、外部研修会へ積極的に参加させ、職員の専門性を高め資格の取得やコンプライアンス意識の向上に努めている。人材確保については、職員の年齢構成や専門性等、将来の執行体制を踏まえ、計画的に正規職員を採用するとともに、有期職員の無期雇用化を検討している。

財源確保に関して、イベントホール（2,000人収容）の多目的機能を活かし多彩な事業を展開し、得られた収益を特定費用準備資金に積み立て、東京オリンピック・パラリンピックの2020年に、日本の古典芸能公演を芝居小屋「長栄座」で計画している。

その他の財源確保について、公益財団法人の優遇税制を活かした「夢キラリ文化基金」を設け、「伝統芸能」「次世代育成」等の事業への寄付を積極的に募っている。寄付者の思いに沿えるよう、平成30年度は邦楽演奏会を社会福祉施設で開催した。

県内の劇場・音楽堂等とのネットワークに関して、平成21年度から「アートコラボレーション事業」として、市町や民間の劇場・音楽堂等と協働で、多様な文化事業を展開し、職員相互のノウハウを提供し合い資質を高めるとともに、地域の活性化の一翼を担っている。また、県や市町の教育委員会とは、小中学校等でのアウトリーチ「アートのじかん」等が充実した内容となるよう、小中学校や教育委員会へ職員が出向き話し合っている。

今後も多様な主体と連携・協働し、本県の文化の創造と振興、さらに文化芸術を通じて地域の活性化に寄与できるよう、役職員一体となって、健全な劇場運営に努めていく。